

ご招待イベントのお知らせ

「モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団 第67回定期演奏会」

★内容：毎年世界各国の著名な演奏家を日本にお招きし、国際親善交流を目指して、お互いの文化の発展向上を目標に開催されています。今回は、日本・ポーランド文化交流演奏会、東日本大震災・熊本地震チャリティーコンサートです。オールモーツァルト・プログラムをぜひご鑑賞ください！！

◆指揮：及川 光悦 氏

◆ピアノ：プシエミスワフ・ウィテク 氏（ポーランド出身）

♪曲目（予定）：モーツァルト作曲「交響曲 第25番 ト短調 K. 183」
モーツァルト作曲「ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491」
モーツァルト作曲「交響曲 第38番 ニ長調 K. 504 <プラハ>」

【日時】平成29年3月24日（金）開演19：00（開場18：30）

※演奏時間は約2時間です。（途中休憩15分間あり、途中入退場は曲間のみ可）

【会場】『紀尾井ホール』（千代田区紀尾井町6-5 TEL：03-5276-4500）

●交通：JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線・南北線「四ツ谷」駅下車、麴町口より徒歩6分
東京メトロ有楽町線「麴町駅」下車、2番出口より徒歩8分 ほか
※会場に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

【申込期限・方法】2月6日（月）までに、下記申込書をFAXで

★注意事項★

1. 全席自由席です。あらかじめご了承ください。
2. 車椅子席はありません。また、車椅子から一般席への移乗もできません。ご了承下さい。
4. 一般のお客様と一緒にご鑑賞です。ほかの来場者や演奏の妨げにならないよう鑑賞マナーを守ってご参加ください。また、演奏中は入退場できません。長時間ご静聴・着席いただける方に限らせていただきます。

【結果の通知】3月3日（金）までに、当落の結果をご連絡いたします。

チケットは開催日に間に合うようお送りします。未就学児は参加不可

----- <キリトリ不要・送付状不要> -----

【申込書】「モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団 第67回定期演奏会」ご招待

※記入洩れが増えております。必要事項をご記入のうえお送りください。

切：2/6(月)

住所：〒 _____ お名前： _____

☎番号（ _____ ）日中連絡の取れる電話番号をお願いいたします。留守電対応可

★希望人数： 合計（ _____ ）人

【お申込・問合せ先】

ひとり親 Tokyo ☎03-5261-1341 FAX03-5261-1343 小高まで

【障害者週間】 東欧音楽家支援 日本・ポーランド文化交流演奏会
東日本大震災チャリティーコンサート 熊本地震チャリティーコンサート

Photo: 猪股政明

モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団

第67回 定期演奏会

*Mozart Virtuoso
Festival Orchestra*



2017.3.24 (金)

紀尾井ホール

開演 19:00 全席自由 ¥5,000
(開場 18:30)

7:00 p.m. FRIDAY, MARCH 24 AT KIOI HALL

お問い合わせ・チケット申し込み

紀尾井ホールチケットセンター ☎03-3237-0061

<http://www.kioi-hall.or.jp/>

演奏：モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団
Mozart Virtuoso Festival Orchestra

及川光悦 指揮

Mitsuyoshi Oikawa Conductor

Mozart Program

モーツァルト作曲：交響曲 第25番 ト短調 K.183

MOZART: SYMPHONY No.25 IN G MINOR, K.183

モーツァルト作曲：ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K.491

MOZART: PIANO CONCERTO No.24 IN C MINOR, K.491

ピアノ：プシェミスワフ・ウィテク PIANO: PRZEMYSŁAW WITEK

モーツァルト作曲：交響曲 第38番 ニ長調 K.504 《プラハ》

MOZART: SYMPHONY No.38 IN D MAJOR, K.504 《PRAGUE》

ピアノ

プシェミスワフ・ウィテク

Piano: PRZEMYSŁAW WITEK



主催：国際親善交流特別演奏会実行委員会 日本音楽文化交流協会 日本・ポーランド協会 TEL / FAX 03-3442-2325

出演者プロフィール

指揮 及川光悦 Mitsuyoshi Oikawa Conductor

1949年、北海道に生まれる。5歳よりピアノを学び、10歳の時、テレビ出演を機会に音楽家を志す。1967年、東京音楽大学器楽科、桐朋学園指揮教室入学。1975年8月、フランス・ニース国立音楽院主催国際指揮講習会を受け好評を博す。1975年10月、研究科在学中に推薦されバリ留学。エコール・ノルマル音楽院にてビエール・デルボー氏に師事、スコラ・カントルム音楽院指揮科・ピアノ科入学。1976年、ザルツブルグ・モーツァルト音楽院主催の国際指揮講習会を受けオトマール・スイトナー氏に師事、大いに才能を認められる。1977年帰国、故岩城宏之氏に認められ札幌交響楽団において研鑽、数多くの演奏会に出演する。1978年、小澤征爾氏に師事。同年「札幌市芸術文化振興基金第1号」を受けアメリカ留学。小澤征爾氏のもとで研鑽を積む。1982年、「芸術家在外研修員」として文化庁によりミュンヘンへ派遣される。受入れ先であるクーベリックのバイエルン放送交響楽団、チェレビダツクのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ザパリツシュのバイエルン国立歌劇場管弦楽団にて各氏に師事、伝統的なドイツ音楽を吸収する。又ベルリン・フィル、ミラノスカラ座、バリオペラ座、パイロイト音楽祭、ペローナ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭のリハーサル・本番・レコーディングに立ち会い研鑽を積む。1983年8月帰国、ただちに東響でデビュー、都響、札幌、京響、新星日響、群響、神奈川フィルで共演、放送・レコーディングで活躍。1986年7月、日中文化交流の一端として中国から招待され、中国電影楽団、上海楽団と共演、交響組曲「東京」～「こもりうた・外山雄三作曲」の海外初演をはたし熱烈な歓迎を受ける。帰国後、日本テレビ「11・PM」、FM東京「世界の音楽をあなたに」出演、中国音楽界を紹介する。

1987年9月・10月、前年に引き続き中国より招待され、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで中国電影楽団、上海電影楽団と共演して絶賛を博し、両楽団より「常任客演指揮者」の称号を贈られ両国の文化交流に大きな役割を果たす。帰国後、FM東京「音楽の森」出演。1988年9月、中国電影楽団、上海電影楽団日中平和友好締結10周年記念・常任客演指揮者就任記念として、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで「文化使節」として公演し好評を博す。FM東京「モーニングジャーナル」・FMジャパン「Jウェーブキャットフィッシュ」出演。1990年6月、チェコ・スロバキア（ズリーン）マルチヌーフィルハーモニー管弦楽団にてヨーロッパ楽壇デビュー、11月、中国（北京）中国電影楽団にて故園田高弘氏と演奏会開催。12月、ソ連「モスクワ放送交響楽団」、ウクライナ国立フィルハーモニーオーケストラ（キエフ）、ヤロスラブリフィルハーモニーオーケストラにて演奏会開催。1992年9月、中国（北京）中国電影楽団にて日中外交正常化20周年記念特別演奏会を開催。10月、日本政府（外務省）・国際交流基金・ポーランド政府文化芸術省の援助のもとでポーランド・カトビツェ国立交響楽団と演奏会開催。

1993年3月、現在世界で屈指のヴィルトゥオーゾ集団である「ロシア・ナショナル管弦楽団」にてロシアピアノ界の巨匠であるニコライ・ベトロフ氏と共演、ウリヤノフスク国立交響楽団と演奏会開催好評を博し日本・ロシアの文化交流に尽力。12月、ハンガリー文化省の後援のもとでフランツ・リスト音楽院大ホールにてサント・ステファン交響楽団と共演。

1994年10月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで前年に引き続きハンガリー・サント・ステファン交響楽団と共演。ルーマニア文化省の後援のもとでヨーロッパの中でも長い伝統を誇る名門オーケストラ「ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団」と共演し、日本・ハンガリー・ルーマニアの文化交流、両国音楽家間の親善に大きく寄与。

1996年2月、ハンガリー・ドナウシンフォニックオーケストラと共演。1997年2月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとでハンガリー・ソルノクシンフォニックオーケストラ、3月、ロシア名門オーケストラである「モスクワ・フィルハーモニー交響楽団」と共演し好評を博す。10月、名門オーケストラである「ブルガリア国立ソフィア交響楽団」と共演。帰国後テレビ朝日「徹子の部屋」に出演。1998年4月、ポーランド・アルトゥール・ルービンシュタイン・フィルハーモニックオーケストラと共演。1999年10月、日本・ブルガリア文化月間10周年記念・国交回復40周年記念公演に招聘され「文化使節」として名門オーケストラである「ブルガリア国立放送交響楽団」と共演。2000年、「文化庁舞台芸術創作奨励賞選考委員」就任。2001年5月、名門オーケストラである「サンクトペテルブルグ交響楽団」（旧レニングラード交響楽団）と共演。2002年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団、ルーマニア「コンスタンツァ交響楽団・ガラツ交響楽団」と共演し大成功を収める。2002年10月、日本・ブルガリア文化月間に招聘され、「文化使節」としてブルガリア国立ソフィア交響楽団にてヴァイオリニストの天満敦子女士と共演。2004年4月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演、大成功を収め「常任客演指揮者」に就任。2005年5月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。2006年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。

2009年11月、ブルガリア文化の発展と普及への功績に対して、ブルガリア共和国文化省より「名誉表彰状」と「名誉章」を授与される。

2010年10月、ポーランド・トルン交響楽団と共演、ベルギー（ブリュッセル）にてトルン交響楽団と共演。

2011年10月、ポーランド（ピゴドシチ）ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。ベルギー（ブリュッセル）にてポーランドEU議長国就任記念コンサートに招聘されポーランド・ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。

2013年1月～2月、豊島区制施行80周年記念に対して「感謝状」と「豊島区文化功労表彰」を授与される。10月～11月、社会福祉法人「東京都社会福祉協議会」社会福祉法人「横浜市社会福祉協議会」より永きに亘る福祉活動により「感謝状」を授与。東欧音楽家支援20周年記念として札幌市から「感謝状」を授与する。

2014年7月、ルーマニア政府より「文化功績勲章」を受章する。

ピアノ プシエミスワフ・ウイテク Przemyslaw Wittek Piano

1985年にヴァウブジフ市で生まれたピアニスト。Alicja Kledzik教授の指導の下、ボズナンのイグナツィ・パデレフスキ音楽アカデミーにて優秀な成績を収めた。また、ベルリン芸術大学ケルン音楽大学でも学び、2015年に博士号（音楽）を取得し、母校で講師として仕事を開始した。現在はワルシャワのショパン音楽アカデミーでKrzysztof Jabłoński教授を受けている。

国際ピアノコンクールの入賞者であり、ローマ（2004年）、ヴァルティドネ（2005年）、ラッコニージ（2006年）というイタリアの都市で行われたコンクールで優勝し、ガイヤールのアディリア・アリエヴァ国際ピアノコンクール（フランス、2008年）やボズナンのハリナ・チェルニー・ステファンスカ記念国際ピアノコンクールにおいて1位に輝いた（2008年）。

ウイテク氏はポーランド放送アマデウス室内管弦楽団・ベートーヴェンアカデミー室内管弦楽団と協力し、ドルヌイシロンスクフィルハーモニー管弦楽団・クラクフフィルハーモニー管弦楽団・コシャリンフィルハーモニー管弦楽団・スーデツカフィルハーモニー管弦楽団・シュチェチンフィルハーモニー管弦楽団・シフィエニツキシシュフィルハーモニー管弦楽団やブウォツク交響楽団などと共演したこともある。

Agnieszka Duczmal, Marek Pijarowski, Paweł Przytocki, Jacek Rogala, Ruben Silva, Marko Ivanovic, Grigorij Krasko, Jakub Chrenowiczといった

指揮者とも協力。2009年にスブスク市で行われたポーランドピアノ祭の決勝の際にも演奏し、スーデツカフィルハーモニーで2010年/2011年、さらにモンテネグロ国立フィルハーモニーで2013年/2014年のコンサートシーズンを開催した。また、室内管弦楽団の一員としてBenedict Klockner, Jiri Kabat, Anna Maria Staskiewicz, Katarzyna Budnik-Galazka, Janusz WawrowskiとBartosz Worochとも協力した。

ポーランドの最も大きい都市以外に、米・中国・シンガポール・サウジアラビア・スペイン・フランス・イタリア・ベルギー・ドイツ・スイス・ウクライナ・ロシアという様々な世界の国々でも演奏を行った。

2004年と2012年にパチカン放送のためにKarol Szymanowskiの曲を収録した。さらに、2011年3月にSzymanowskiとRachmaninowの作曲を含めた「Decadence」というプシエミスワフ・ウイテクのデビューアルバムがポーランド放送とPonte Art Productionにより出された。2014年には、Andrzej Nikodemowiczのピアノソナタを世界で初めて演奏し、その後収録した。また、Mieczysław Weinbergのピアノの曲も収録し、ポーランドでも初演を行った。

お客さまから最も信頼される、
そして 選ばれる証券会社へ。

MIZUHO

私たちは、〈みずほ〉が目指す、
「総合金融コンサルティンググループ」の
唯一のフルライン証券会社として、
社員の「個」の力を一層強化し、お客さまに信頼され、
選ばれる証券会社を目指してまいります。

みずほ証券